

## 令和4年度総合的な探求の時間等の取り組み

○今年度は1・2年生が昨年の卒業生が取り組んだ、備長炭の端材を活用してのコーヒー豆の焙煎や豆の仕入れ販売を引継ぎます。新たな取り組みとして、豆のオリジナルブレンド、コーヒーバッグの販売を行う予定です。昨年度の販売数の180個以上を目標に頑張っています。将来的には、売上金で、備長炭の原木であるウバメガシの植林を目指します。

### 紀州新聞様記事（焙煎実習）



紀州備長炭を使って珈琲豆を焙煎する中津分校生

日高高校中津分校は、昨年度の3年生が初めて取り組んだ紀州備長炭焙煎の珈琲豆製造と販売を今年度も継続。27日に1、2年生34人が、町製炭研究所を見学するなどして備長炭について学習し、活動を始めた。

### 日高中津分校が今年も取り組み

## 備長炭焙煎の珈琲豆販売

今年度はイベントなどで焙煎した豆を使った珈琲の販売を目指す。日本一の生産量を誇る紀州備長炭を通して地域の産業を学ぶながら、経営感覚などのキャリアを高めよう。と、同校OBで紀州備長炭製炭業「BOSTYLE」を営む湯上彰浩さん(34)の協力を得て昨年度から初めて取り組んだ。規格外の備長炭の端材を活用して珈琲豆を生産し、焙煎し、パッケージやネーミング、価格などを考えて道の駅Sannanで販売した。今年度は1、2年生が珈

琲豆の生産と販売に取り組む。新たに「珈琲」の店頭には、備長炭の製炭工程などについて説明を受け、湯上さんは「紀州備長炭は製炭技術を含めて県の無形文化財になっている。世界最高級の炭です。昨年、世界最高級に選ばれる「珈琲」を盛りつけてほしい」と声を掛けられ、実際に備長炭を使った珈琲豆を焙煎した。

### 日高新報様記事（焙煎実習）



備長炭でコーヒー豆の焙煎を体験する生徒たち

日高高校中津分校は先月27日、総合的な探究の学習として、1、2年生(計34人)が日高川町製炭研究所を見学した。同校では昨年度、3年生が紀州備長炭の製

### 中津分校の備長炭コーヒー

## 今年は1、2年生が焙煎

日高高校中津分校は先月27日、総合的な探究の学習として、1、2年生(計34人)が日高川町製炭研究所を見学した。同校では昨年度、3年生が紀州備長炭の製炭工程について学び、今年度は1、2年生が取り組み、備長炭の端材を活用して珈琲豆を生産し、焙煎し、パッケージやネーミング、価格などを考えて道の駅Sannanで販売した。今年度は1、2年生が珈琲豆の焙煎を体験する生徒たち





**備長炭焙煎の珈琲バッグ**  
**日高中津分校が商品化めざす**

備長炭で焙煎した珈琲の豆のドリップ  
バッグで商品化に取り組む生徒

日高中津分校は、昨年度から取り組んでいる紀州備長炭焙煎の珈琲豆の珈琲バッグを商品化しよう

紀州新聞様記事



**備長炭焙煎の珈琲バッグ**  
**日高中津分校が商品化めざす**

備長炭で焙煎した珈琲の豆のドリップ  
バッグで商品化に取り組む生徒

日高中津分校は、昨年度から取り組んでいる紀州備長炭焙煎の珈琲豆の珈琲バッグを商品化しよう

○今年度の新しい取り組みとして、中津保育所近くの畑をお借りして、佐々木義秋様の指導のもと、中津保育所の園児さんと一緒にさつまいもの苗植えを行いました。秋には、園児と収穫し、地域の方々のご指導・ご協力を頂き焼き芋の移動販売を目指しています。



園児と一緒にサツマイモの苗植えを体験する

### お兄ちゃん達とイモ苗植え

#### 中津分校生と園児が交流

日高中津分校の1年生11人が25日、総合学習の一環で地元の中津保育園と交流。園児と畑でサツマイモの苗を植え、秋には収穫や販売も体験するという。

1、2年生34人が保育園を訪れ、一緒に歩いて佐々木義秋さん栽培の畑へ。2年生は無農薬で自然農法を取り入れている小麦の収穫を体験し、1年生は園児と一緒に苗植を体験した。

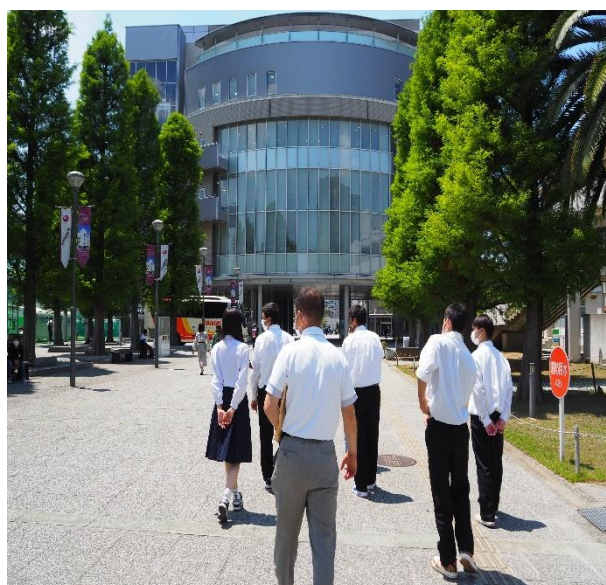
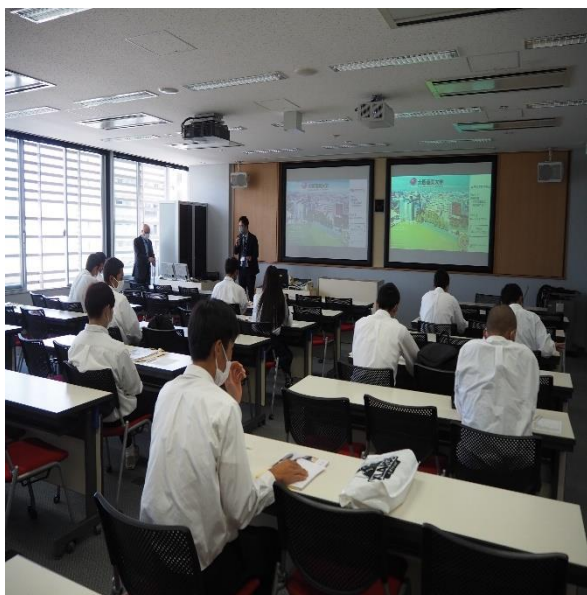
佐々木さんから苗の植え方を教わったあと、地元中津中出身の市木栄典君と室涼雅君らも園児に優しく接しながら手を取って1本ずつ苗を植えた。

秋には園児と一緒に収穫し、焼きいも販売を計画しているほか、園内の畑での苗植えなど交流を続けていく。



### ○3年生の総合的な探求の時間の取り組み

今年度は、自己実現（進路実現）を目標に取り組んでおり、5月18日（株）さんぽう様、大阪商業大学様のご厚意により、2022大学見学・研修会を独自に実施しました。日頃、大学のキャンパスを実際に歩いたり、講義を受けることが難しいなか、貴重な経験をさせていただきました。進学希望者も多く、今後の進路決定に参考にして欲しいと思います。





○日高高校・中津分校定期戦

6月11日（土） 中津分校G

今年度は、分校が当番であり、分校グラウンドで定期戦が行われました。

日高高校本校は、春季近畿地区高校野球和歌山県予選でベスト4に入り、近畿大会は逃したものの、選手権和歌山大会のシード権を獲得しました。ここ2年間の定期戦は、同点でしたが、今年は、中津分校が9対4で勝利することができ、選手権和歌山大会に弾みをつけることができました。

紀州新聞様記事

**日高中津がシード日高に勝利**  
**夏の高校野球前に恒例の定期戦**

日高と中津分校野球部の定期戦が8日、中津分校グラウンドであり、約1カ月後に迫った夏の大会に向けて、両校の選手が対戦。夏シードの日高を相手に中津分校が序盤から点を重ねて9対4で日高に勝利した。

グラウンドに整列した両校選手に、山本直樹校長は「夏の大会が1カ月後に迫るこの時期に互いに切磋琢磨し、親睦を深めよう」と2000年から始まって20年以上になる、練習してきた成果を出し、どんな準備が必要かを確認してほしい。夏に向けてさらにレベルアップしてほしい」と激励。日高・清水康生、日高中津・山西登両主将が本塁上に駆け寄り、山西主将

一球にひたむきに追う全才プレーです。支えてくれていた全ての人に感謝の気持ちで最後まで戦い抜きます」と選手宣誓。池田校長の始球式で試合が始まった。試合は、日高・片山、日

一中津・白川の両エースが先発。中津は初回、2死から1年生・市木が中越3塁打のあと山西の内野安打で先制すると、2回には中川、土川の連打で2点、3回にも出口の適時打や敵失で5点をリード。日高も3回に谷口の適時打で1点を返した。中盤以降も両校が点を取り合ったが、序盤のリードを守った日高中津が9対4で勝利した。

日高・清水、日高中津・山西両主将が選手宣誓

日高新報様記事

**甲子園へ切磋琢磨**  
**日高兄弟校が恒例の定期戦**

7月12日、ウインドで行われた。和歌山県の県営紀三井寺球技場開会式があり、マウンドで開幕する第104回全国高校野球選手権大会が整列。山本直樹校長が両校の活躍に高兄弟校による恒例の期待を込めてエールを送り、日高中津の山西高川町の山西分校グラウンド主将（3年）が「私

日高中津初回、先制の本塁を踏む市木栄勇選手

たにできることは一球をひたむきに追う全才プレーです。日々支えてくださっている全ての方に感謝の気持ちを持ち、最後まで戦い抜くことを誓います」と宣誓した。

試合は山本校長の始球式で始まり、9対4で日高中津が勝利。定期戦は夏の甲子園出場へ切磋琢磨、交流の機会にと2000年から行われている。

